

定理 2.41 $\langle A, \leq \rangle$ を最小元 0 と最大元 1 を持つ束とする。任意の要素 $a \in A$ に対して、 $a \vee 0 = a$, $a \wedge 0 = 0$, $a \vee 1 = 1$, $a \wedge 1 = a$ が成り立つ。

【証明】

定理 2.27 により、 $a \leq a \vee 0$, $a \wedge 0 \leq 0$ である。 $a \leq a$, $0 \leq a$, $0 \leq 0$ から、定理 2.29 により、 $a \vee 0 \leq a$, $0 \leq a \wedge 0$ である。半順序関係の反対称律により、 $a \vee 0 = a$, $a \wedge 0 = 0$ である。他の二つの式も、同様に証明できる。